平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	10	ー	36

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	幌内簡易水道管路漏水調査事業					
評価者	担当課名		建設水道課	担当係名		水道係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	佐竹邦夫		氏名	江田一夫
事業の概要	幌内簡易水道給配水管の漏水調査により、配水管破裂事故の未然防止を図ると伴に、安定給水の維持並びに、有収率向上のため実施するものです。					

全体計画 ／期間限定複数年度（平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	1,000 千円
	事業費計	1,000 千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　）
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度 A

事業の位置付け			
政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
基本施策	17	上・下水道の整備	
単位施策	1	水道の安定供給	
事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務	
その他計画・根拠等			

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	0 千円	0 千円	0 千円	945 千円	0 千円
	合計	千円	千円	千円	945 千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	町民、水道
【抱える課題やニーズは】	給配水管破裂事故による断水。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	漏水量の低減、破裂事故による断水の未然防止を図る。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	安定給水の維持、強化を図る。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

漏水調査延長

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 漏水調査延長/漏水調査延長の実績	目標年度	平成23年度
	目標値	8000
	実績値	8000
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
民間業者による調査委託の実施	専門の民間業者に委託発注し、漏水調査事業を実施した。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	漏水量の低減、安定給水維持のための業務は、町が担う必要があります。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	漏水が発見されたことにより、未然に修理を行うことができた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	見積により事業費が軽減されたことは、効率的であると判断する。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	漏水量が低減し、安定給水が維持されたことから、公平であると判断する。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
水の安定供給のためには、今後も漏水量の把握に努め事業を進める事が適当であると判断する。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
水の安定供給のためには、継続現状維持が適当であると判断する。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）